

タンザニア

～バスの中で垣間見える助け合いの精神～

在タンザニア日本国大使館

ダルエスサラームはタンザニアで最大の都市ですが、そこには市民の主要な移動手段の一つとして「ダラダラ」と呼ばれる乗合バスがあります。主に日本で使われていた中古のマイクロバス等が使用されています。これに乗れば、時間はかかるものの、たいていのところに行くことができます。バスの停留所で乗客が乗り込む時、彼らは、我先にとばかりに、ドアから、窓から、バスの中になだれ込みます。車内はあっという間に足の踏み場がなくなるので、踏まれて怪我をしてしまうこともしばしば。タンザニア生活の大変さが垣間見える一面です。

ところが、そこに赤ちゃん連れのお母さんが乗ってくると、バスがどんなにぎゅうぎゅうに込んでいても、入口付近に座っている乗客は、老若男女問わず、必ずそのお母さんに手をさしのべ、まず赤ちゃんを受け取り、バケツリレーの要領で、座席に座っている人の安全な膝の上に寝かせるように手渡します。赤ちゃんを手渡された乗客は、小さな小学生でも、お年寄りでも、見知らぬ人の赤ちゃんを膝の上に抱きます。バスの中で、赤ちゃんが多少手の届かないところまでいっても、お母さんは何食わぬ顔。赤ちゃんの方も、泣いたりすることなく静かにしています。助け合って生きて行くことを大切にしているタンザニア社会の温かさが感じられる瞬間です。



ダルエスサラーム市内のダラダラの乗り場で乗客を待つダラダラの列
バスは満員になるまで出発しない

(了)